

⑬ 公開特許公報(A)

昭61-259959

⑪ Int. Cl.<sup>4</sup>

B 65 D 33/25

識別記号

庁内整理番号

A-6833-3E

⑭ 公開 昭和61年(1986)11月18日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑯ 発明の名称 咬合具付袋体

⑰ 特 願 昭60-95594

⑱ 出 願 昭60(1985)5月7日

⑲ 発 明 者 清水 輝 美 浜北市高畑37-2

⑳ 出 願 人 株式会社 生産日本社 東京都千代田区麹町5丁目3番地

㉑ 代 理 人 弁理士 平井 二郎

明 細 書

1. 発明の名称

咬合具付袋体

2. 特許請求の範囲

(1) 開口部に再開閉可能な咬合具を備えた合成樹脂製の袋体において、前記咬合具より袋体収納部側に、咬合具と袋体収納部間を区画し、かつ袋体の巾方向全域に亘って密封する仕切膜を設けたことを特徴とする咬合具付袋体。

(2) 前記仕切り膜は褶幅を有している特許請求の範囲第1項記載の咬合具付袋体。

3. 発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本発明は、再開閉可能な咬合具を備えた合成樹脂製袋体に関するものである。

<従来の技術>

開口部に、再開閉可能な咬合具を備えた合成樹脂フィルム、又は合成樹脂フィルムと金属箔等との複合フィルムによる袋体は公知である。

<発明が解決しようとする問題点>

従来の咬合具付袋体は、咬合具の上方の開口部を確実にヒートシールされていても、袋体の両サイドのヒートシールと共にヒートシールされる咬合具の両端部が、咬合具自体の肉厚のために、ヒートシールが不完全となり易く、この咬合具両端部の密封性が損なわれてしまうことがあった。従って、飯状の収納物の場合には、咬合具両端部より液体が浸出する不都合がある。また、咬合具両端部のヒートシールが十分であったとしても、咬合具の咬合部間隙より液体が浸出する場合があるなどの問題点があった。

<問題点を解決するための手段>

上記の問題点を解決するために本発明は、開口部に再開閉可能な咬合具を備えた合成樹脂製の袋体において、前記咬合具より袋体収納部側に、咬合具と袋体収納部間を区画し、かつ袋体の巾方向全域に亘って密封する仕切膜を設けたものである。

<作 用>

本発明は、咬合具と袋体収納部間を区画密封した仕切膜で袋体収納部の気、水密作用を行うものである。

#### <実施例>

以下本発明の実施例を図面に基づいて説明する。第1図において、1は袋体、2は袋体の開口部、3は前記開口部に設けられた再閉閉可能な咬合具であり、周知のように雄、雌爪等からなる凹凸咬合するものである。

本発明は、上記咬合具3と袋体1の収納部間を区画し、かつ袋体1の巾方向上の全域に亘って密封する仕切膜4を設けたものである。

第2図乃至第4図は、その各実施例を示し、第2図の実施例では、袋体1を構成するフィルムを二つ折りにして仕切膜4を形成し、この仕切膜4の近傍の袋体1の外側面に、別成形した咬合具3のベース片6をヒートシートした構造である。

第3図の実施例は、咬合具3並びに仕切膜4を袋体1のフィルムと同時成形した一体構造で

ある。

さらに第4図は、咬合具3を袋体1のフィルムと一体成形したものにおいて、別個に仕切膜4を袋体1の内側面にヒートシートした構造である。

上記仕切膜4は増肉としたり、引き寄せ易い素材を用いたりする等して袋本体よりも比較的開封し易いものとするのが好ましく、或いは仕切膜4の中央部に、袋体1の巾方向上に沿ったカットライン5を設け、仕切膜4の開封を容易にしてもよい。また、仕切膜4は咬合具3から少しく離れた位置であって所要の幅幅を持たせることが好ましい。

本発明は、上記の通りの構成であるから、袋体1の収納部は、咬合具3より下方、すなわち、袋体1の収納部側で仕切膜4により密封状態となっている。従って、仮りに咬合具3の両端部のヒートシールが不完全であっても該部から液体が浸出することがなく、また、咬合具3の雄、雌爪の間隙からの浸出もなく、液体状の

収納物を袋体1の収納部に確実に収納する。

さらに、仕切膜4は、袋体1の収納物や、収納部の内圧により袋体1のフィルムが仕切膜4部分において仕切膜4の幅幅以上に拡張することを規制する。

この拡張規制により、咬合具3が前記内圧等により自然に咬合解放することを阻止し、咬合状態を保持する作用も有している。

#### <発明の効果>

以上のように本発明によると、咬合具と袋体収納部間を区画し、かつ袋体1の巾方向全域に亘って密封する仕切膜を設けた構成の咬合具であるから、咬合具の両端ヒートシール部、あるいは咬合具の雄、雌咬合部の気、水密機能が不十分であっても、仕切膜によって袋体収納物の気、水密を保持し、また、仕切膜は、袋体収納部の内圧、あるいは袋体の底部より収納部を自動充填するときの充填圧等による咬合具の咬合解放方向の作用力のストッパの役目を果たし、咬合具の自然解放を防止する効果を有してい

る。

従って、末端需要者が仕切膜を開封するまでの生産、すなわち、収納物の袋詰充填から流通過程を経て陳列販売及び需要者の持ち運び保管までの間の気、水密が十分確保される利点がある。

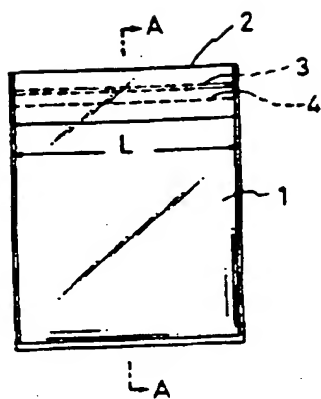
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明袋体の正面図、第2図、第3図及び第4図は第1図A-A線における各種実施例の断面図である。

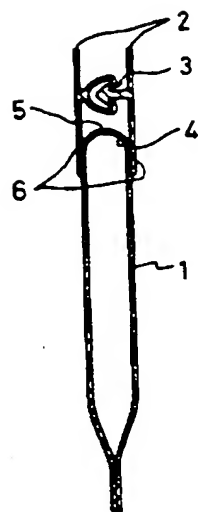
1・・・袋体、2・・・開口部、3・・・咬合具、4・・・仕切膜、5・・・カットライン。

特許出願人 株式会社生産日本社  
代理人 平井 二郎

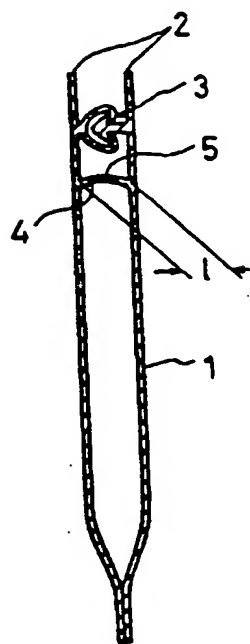
第1図



第2図



第3図



第4図

